

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

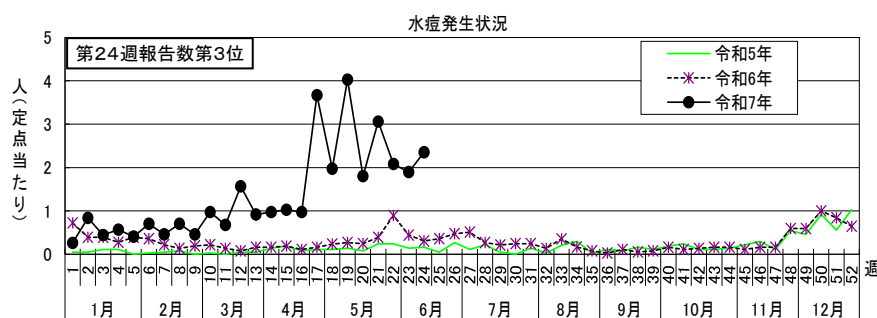
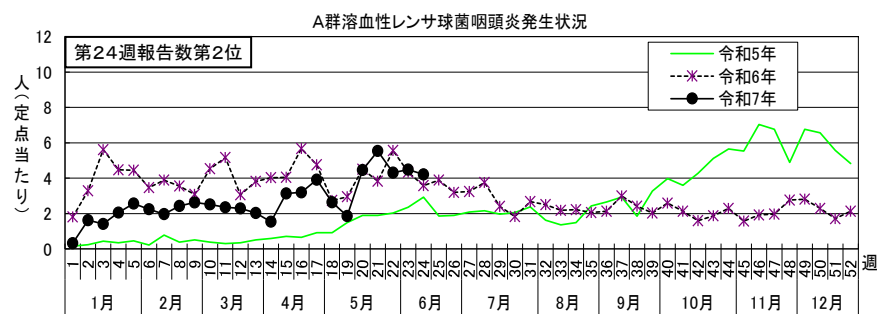
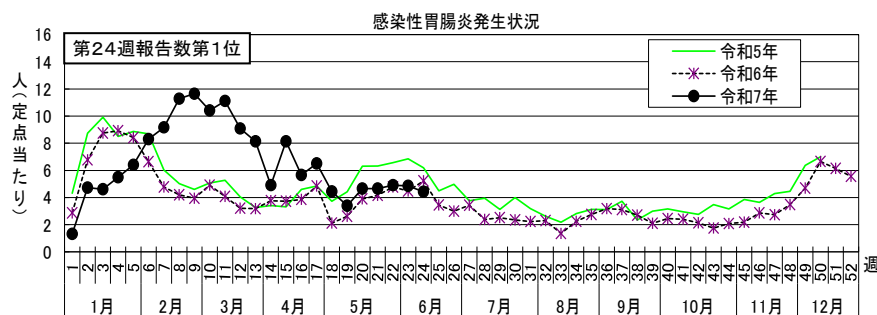
令和7年6月9日（月）～令和7年6月15日（日）〔令和7年第24週〕の感染症発生状況

第24週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3）水痘でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.43人と前週（4.86人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.22人と前週（4.49人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。

水痘の定点当たり患者報告数は2.35人と前週（1.89人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



百日咳の報告数が過去最多に！

川崎市における令和7年の百日咳の患者報告数は、第24週（6月9日～15日）までに257件と、全数把握疾患となった平成30年以降最多となり、このうち15歳未満の報告が194件と全体の75.5%を占めていました。

百日咳は乳児が感染すると重症化しやすく、無呼吸発作やチアノーゼ、スタッカート（途切れなく続く発作性で連続的な咳込み）等の症状がみられ、多くの場合入院を要します。川崎市においても、報告時に入院していた方は全てワクチン未接種の乳児でした。

重症化を防ぐためにも、定期接種の対象となる生後2か月を過ぎたら、なるべく早く接種を受けるようにしましょう。

百日咳含有ワクチン*の定期接種スケジュール

- 初回接種 生後2～7か月の期間に20日以上（標準的には20～56日）の間隔をおいて計3回
 - 追加接種 3回目の接種から6か月以上の間隔をおいて1回
- ※DPT-IPV-Hibなど

川崎市における百日咳の発生状況 （平成30年第1週～令和7年第24週）



令和7年に川崎市で報告された15歳未満の患者のワクチン接種歴別症状発現割合（n=179*）

